

ガイダンスを取り入れた日本事情の取り組み

Introduction to Japan: A Guidance-oriented Approach

柴田 幹夫*・郭 俊海*

(shibata@isc.niigata-u.ac.jp; guo@isc.niigata-u.ac.jp)

The purpose of this report is to review the course of “Introduction to Japan” conducted for the Intensive Japanese Class students in 2004. It is hoped that the paper can provide some basic references for the future development of the introductory courses related to Japan and Japanese culture.

1. はじめに

2003年11月に名古屋南山大学で行われたJAFSA（国際教育交流協議会）主催の名古屋異文化コミュニケーションセミナーの場において、講師の横田雅弘（一橋大学留学生センター）、白土悟実（九州大学留学生センター）の両先生から、留学生アドバイジングの機能、とくにオリエンテーションの必要性和重要性の講義を受けました。

オリエンテーションについては、短期と長期のオリエンテーションに大別できるだろうが、言うまでもなく短期のオリエンテーションは、留学生に対して、来日直後のさまざまな情報を与えることです。また生活環境に慣れるという意味で地域や大学の構成員（教員、事務員）などと共に、来日してから起こるだろうと予想されることについて、案内してもらうと言うこととなります。

それに対して、長期のオリエンテーションというのは、まさに日本文化へのガイダンスであり、日本に対する教育そのものである。日本についての理解を深めることは、日本語を学ぶときの大きな動機付けともなろう。ここでは、日本語初修者（いわゆるゼロビギナー）に対して、半年間にわたり日本事情の授業をつかい、日本文化理解のためのガイダンス的な取り組みを行いました。それについて簡単に紹介したいと思います。

2. 授業の進め方

授業は柴田幹夫と郭俊海の二人で行い、主として、柴田が講義を行い、郭の方で、英語或いは中国語に翻訳し、また補助説明を行いました。受講生の方はいわゆる予備教育生を中心にして、数人の留学生を公募しました。公募はホームページや掲示から行いました。ただ今回は初めてのケースなので、予備教育生プラス数人というかたちになりました。

*新潟大学国際センター 助教授

*新潟大学国際センター 助教授

ガイダンスを取り入れた日本事情の取り組み

さて、今回予備教育生を対象とした日本事情の科目を使って、予備教育生プラス一般留学生数人が、4回に亘って新潟や日本を知るため、広義的に言えば、日本文化へのガイダンスとすることで、教室を離れて当該授業（表1-2を参照）を行いました。

表1 予備教育のための課外授業（2004年度前期）

日 時	参加人数	見 学 先
5月12日	20	味方村 笹川邸
5月26日	22	新潟市ゴミ処理施設場
6月23日	21	日本の寺院（万栄寺）
7月7日	23	新潟市歴史博物館

表2 課外授業に参加した学生（2004年度前期）

出 身 国	身 分	人 数
フィリピン	予備教育生	2
インドネシア	〃	2
ミャンマー	〃	2
アルゼンチン	〃	1
ブラジル	〃	2
カンボジア	〃	1
モンゴル	〃	1
ブルネイ	〃	1
ベトナム	〃	2
レバノン	〃	1
ロシア	〃	1
イエメン	〃	1
エジプト	〃	1
中 国	交換留学生、学部生及び 大学院生等	5
合 計		23

まず、最初、2004年5月12日（水）に新潟市郊外の西蒲原郡味方村にある「笹川邸」の見学から始めました。ここは、徳川時代、村上藩の大庄屋を務めた笹川氏の旧屋敷跡であるが、ほぼ完全に保存された大庄屋の遺構は、往時を偲ばせるに十分なところであります。味方村の国際交流担当者に連絡を取り、当日笹川邸の管理する人が説明役をかってでてくれました。

ここはこの地域の年貢の取り立てや、命令の伝達、治安、警察、裁判の権利をもつ大きな庄屋でした。この屋敷は、文政九（1826）年に建てられたものであるが、表門などは、さらに古く天正年間（1570年代）に建てられたものと推定されています。

越後（新潟）は、留学生たちにとっても、お米（コシヒカリに代表される新潟米）が美味しいことはみんな感じています。江戸時代の百姓を管理するところを見せることによって、当時の農村社会の一端を垣間見たことだろう。

第2回目（2004年5月26日）は、留学生に生活の身近なところを感じて欲しいと思い、ゴミの問題を取り上げることにしました。毎日大量に出されるゴミは、どのようにして処理されるのかということでもあります。幸い大学の近くに新潟市新田ゴミ処理場があるので、そこを見学することになりました。手配には新潟市の国際課の協力を仰ぎ、通訳まで派遣してもらいました。ゴミ処理場ではまず、ゴミの収集から、分別、処理に至るまでを係員が講義をしてくれました。その後質疑応答や、処理場の見学などを行いました。やはり身近な問題であったせいか、非常に熱心に話に耳を傾け、また質疑も多く出され、留学生の関心が高かったと思いました。留学生のみならず、引率していった我々も非常に勉強になりました。

第3回目（2004年6月23日）は、これもまた留学生には興味のある宗教問題を取り上げました。新潟市内にある寺院を訪ね、仏教の簡単な話や、仏像、お経について丁寧に話しをしてもらいました。日本人は概して宗教に関心を持っていないが、留学生たちは宗教そのものが生活の一部をなしている者が多いように思われます。とくにイスラム圏から来た留学生には、その傾向が顕著に見られます。今回協力していただいた寺院は浄土真宗本願寺派の万榮寺（新潟市小新）であります。筆者も本願寺派に属する僧侶であるため、旧知の住職に依頼し、実現の運びとなったわけでもあります。本堂に自由に入り、また自由に焼香などを行い、住職の話真剣に聞いている留学生の姿を見てみると、やはり宗教に対して、畏敬の念を持っているかのように思えました。とくにイスラム圏から来た学生にとっては、日本の仏教、それも家族生活と一体となった寺院の様子に非常に興味関心を持っていたようでした。中国からの留学生も日常生活にとけ込んだ仏教という形態がなかなか理解できないようでした。中国では仏教の僧侶という者は、すべて出家僧であるのが普通の形であり、日本のとくに浄土真宗のような形を取る者は、僧侶とは言わず、居士というのが普通だそうです。

儀式もまた宗教を考える上で、重要な要素となる。当該寺の住職の丸山先生は声明（仏教で言う教典を読むことや仏教音楽のこと）の大家であり、音楽的リズムを有する声明を実地で聞かせてくれるなど、留学生にとっては有益この上ない収穫であったに違いありません。

さて最後の第4回目（2004年7月7日）は、新潟市の歴史を学ぶために、新潟市歴史博物館に行きました。ここは旧新潟税関庁舎や第四銀行旧住吉支店跡などからなる歴史博物館であります。新潟のことについて、とくに新潟の歴史や、古い建物、水や緑に関することなど複合的にわかることが出来るので、留学生にとっては一石二鳥であったかも知れないこの行事もまた新潟市国際課の多大なご協力の下に行われたことを記しておきます。

留学生にとっては、新潟市はその生活の基盤をなすところです。しかしながら、一体自分の住んでいるところはどのようなところなのか、全く知らないで通り過ぎる学生も多々居りま

す。ただ、自分の住んでいるところは言うまでもなく第二の故郷であるので、深く見聞し、歴史を学ぶことによって、地域に対して愛着を感じることは、生活基盤を強固にすることにつながります。常設展示場では、古くから「水」との関わりの中で生活してきた「新潟」の人たちに光を当てて、「水」との関係を中心に展示がしてありました。留学生たちは、農具や水との戦いに非常に興味関心を持っていたようです。

3. 受講生の声

上述したとおり、学生を教室から連れ出し、体で日本の伝統文化や生活事情に触れさせ、また、見学現場で日本での生活や日本事情に関するガイダンスを行うことによって、留学生の授業へ参加意欲だけでなく日本文化や日本社会に関する認識・理解も深めることができました。表3が示すように、将来における現地見学の継続と事前準備、特に課題提示が大きな課題の一つとなっています。

表3 日本事情と受講した学生の声

“Indeed the course that you offered has been very informative and fun at the same time. You should definitely maintain the fieldtrips. You could include though more visuals as documentaries, films etc. on Japan but it's preferable that they have English subtitles otherwise it might be boring for students.”

Student from the Republic of Lebanon

“I think you should keep it up. It was a very good experience for me to see and learn about Japan by going to different places. It was one of the more exciting parts of the Intensive Course for me.”

Student from the Republic of the Philippines

“In fact; my most enjoyable thing of that class was that we could have a chance to go to some Japanese traditional places to get some knowledge.”

Student from the Socialist Republic of Vietnam

“I think that the study trip is very important for foreign students in order to know more about Japan outside the campus. The course should focus on some main points, especially Japanese culture and religion.

Student from the Kingdom of Cambodia

“The field trips were very useful in learning new things; it's a more direct approach in the process of getting to know Japan and its culture. I thought that the subjects, which were very diverse, were also very interesting. I enjoyed the class very much.

Student from the Argentine Republic

“I enjoyed all the outer-walls activities we had and reckon that all my classmates will agree with me. On the other hand, I also felt lack of dynamics in our classes, maybe due to our limited skills in Japanese language and to the “alienation” process we experienced as foreigners.”

Student from the Federative Republic of Brazil

“The outgoing trip to the museum, recycling factory, NO theater and so on help to build up a real image about Japan. However, normally the language ability of the students of this course is still limited, so that it is difficult for us to study such topics like history or religion of Japan, I suggest that the students should be provided material in both English and Japanese. The material may be given to students before having an outgoing trip to help them some knowledge in advance.”

Student from the Socialist Republic of Vietnam



笹川邸にて

4. 今後の課題

以上のように新潟や日本の文化を知るための第一段階として、身近な所にある文化施設を中心に回ったわけであるが、留学生にとっては、初めての所ばかりであり、日本の文化の一端に触れることが出来たのではないかと考えています。ただ問題点としては、

- 1) 本来は定員枠を増やして、さらに多くの留学生が参加できる体制に持って行くことが望ましいが、それは予備教育の時間を利用しての「日本事情」であったために、広汎な留学生に対して門戸が開けられなかったことであります。
- 2) 毎回小型のバスを借り上げて、バスツアーの形をとったので、バスの定員に合わせて学生を補充募集したので、多くの留学生を集めることが出来ませんでした。
- 3) さらに、事前の計画が系統立っていなかったので、行き当たりばったりの感じが否めませんでした。ただ事前に計画書をきちんと作ってやるというのも何か変な感じがするが、バスを使ってやる以上仕方ないことかも知れません。
- 4) 将来的には、多くの留学生に来てもらい、日本文化の入門講座としてこのガイダンスが存在すれば無上の喜びでもあります。

5. 終わりに

今回、このバスツアーに協力をしていただいた、味方村笹川邸の木下さん、新潟市新田のゴミ処理場の関係者各位、新潟市国際課の能登谷課長はじめ、通訳さん、それに万栄寺住職の丸山文雄先生、歴史博物館の関係者各位及び留学生のみなさまに感謝いたします。